

豊かなコミュニケーション能力を身につけた子どもの育成 ～子どもが生き生きと学ぶ英語活動を通して～

新見市立思誠小学校 教諭 西村 欣也

1 研究の概要

本校では、昨年度より新見市教育委員会の研究指定校事業及び福武教育文化振興財団からの助成を受け、英語活動の研究を進めている。英語を使い、計画的、系統的、意図的にコミュニケーションを図る経験を重ねることで、言葉や心が通じ合うことに喜びを感じ、国際人として世界につながる自分を目指していこうという意欲や、急激に変化する社会の中で、自分の夢に向かって主体的に生きるための確かな力の素地を身に付けさせたいと考える。そのためにも子どもが楽しみながら英語にふれ、主体的に人と関わったり、外国の言語や文化などに慣れ親しんだりするなど、生き生きと学ぶ英語活動の創造をテーマとして研究に取り組んでいる。



2 実践事例

(1) 生き生きと学ぶためのカリキュラムの開発、指導体制、指導方法の工夫

子どもの興味・関心、系統性や発達段階を意識した単元構成に基づく授業を展開すれば、意欲的に英語表現や言語材料に親しみ、実践的に使うことができると考える。そこで、各学年の指導内容を明確にし、独自に作成した単元指導計画に基づいて授業実践を行っている。

(2) コミュニケーション能力の育成を効果的に図るための活動や場の工夫

親しんだ英語表現を使って伝え合う意味や必然性のある活動に取り組むことを通して、意欲的・主体的にコミュニケーションを図る態度や能力を育てることができると考える。そこで、「聞いてみたい」「伝えたい」という願いや意欲、目的意識をもってお互いの考えや意思を伝え合うことができるような活動や場の工夫に努めている。

コミュニケーションの素地となる英語表現に親しむための活動の工夫（インプット）

目的意識をもって伝え合う、タスクを意識した活動の工夫（アウトプット）

「Shisei Game-like Activities Card」の作成、活用による系統的、効率的な指導の工夫

(3) 意欲や表現する力の向上につながる評価の工夫と支援の充実

1時間の授業や単元を通して活動した自分や友達の姿を想起しながら感想発表や感想の記述をすることで、お互いのよさを認め合い、共に伸びようとする意欲や姿勢が育つと考える。そこで、「ふり返りカード」「チェックカード」などによる自己評価活動の充実を図っている。

自己評価活動、教師の評価による「指導と評価の一体化」の推進と支援の工夫

「児童アンケート」による定期的な意識調査の実施と児童理解

3 まとめ

アンケートや自己評価から、多くの子どもが英語活動の時間を楽しみにしており、楽しく活動していることが分かる。また、ゲーム活動の楽しさだけでなく、友達の好みを知り、思いを伝え合うことに楽しさや喜びを感じている児童も多く、人との関わりを大切にして活動しようとする意欲や態度の高まりが感じられる。これは、伝え合う活動やお互いを認め合う評価活動の積み重ねの成果と言える。また、外国の言語や文化などにもふれる経験を重ねたことは、日本との違いやそれぞれのよさへの気付きや理解にも結びついている。